

開教使のお仕事

「海の内外のへだてなく」
海外にも、真宗大谷派の寺院があることはご存知ですか？
海外開教の現場で、ご門徒とともに聞法するのが「開教使」とよばれる方々です。今回はその募集にあわせて、南米・北米・ハワイの三つの海外開教区と、開教使の活動について、ご紹介します。

1 海外開教区について

今から百数十年前、明治新政府によって移民が許可されて以降、日本各地から多くの人々が、新天地を求めて海を渡りました。言葉や文化の異なる新たな土地での生活は、その日を生きるだけで精一杯でした。しかし、海を渡った人々は念仏の教えを確かめ合う場を求め、共にあい集う場所として、その地に寺院を建立していったのです。時を経て、寺院を取り巻く状況は大きく変化し、今では、その国で生まれ、現地の

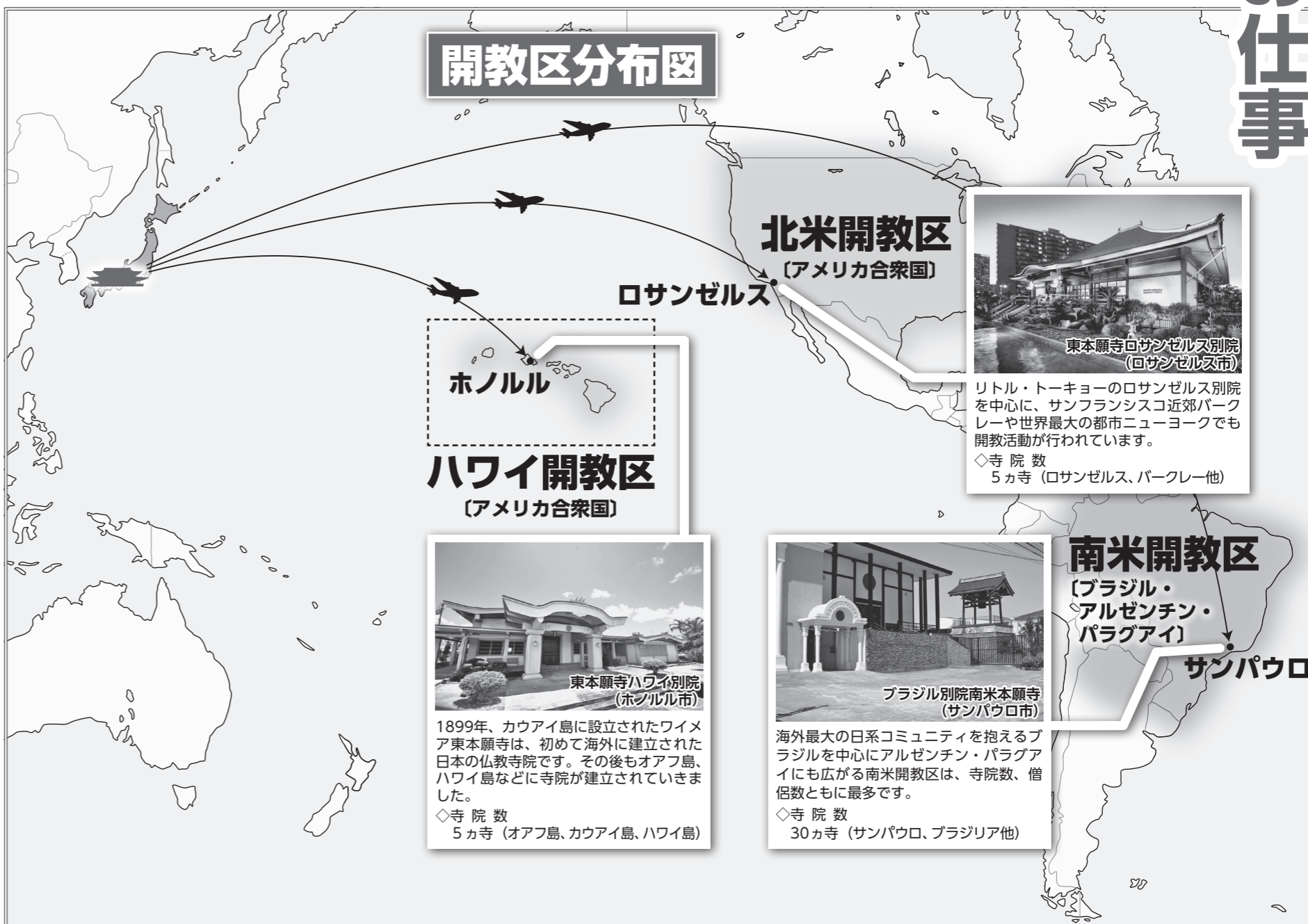
言葉や文化で育った世代が中心を担いつつあります。今日の海外の真宗寺院は、海を渡った先人に始まり、そして今日まで念仏の教えを受け継いできたDOJO（同朋）によって支えられてきたのです。

2 海外寺院の活動

開教区には、別院を中心に開教寺院や布教所が置かれ、日曜（土曜）礼拝や、法事・葬儀が勤められています。お勤めの後には、法話が現地の言葉で行われます。仏教、特に日本仏教がマイノリティーである海外では、親戚や知人の法事や葬儀などを通じ初めて仏教にふれるきっかけとなることが多いです。

また、移民と共に海を渡った日本文化は、今では非日系の方々にも広く浸透しており、寺院では餅つきなどの年中行事をはじめ、日本文化のクラスも行われています。

寺院の運営はバザー等の催しでの収益によって賄われていることも多く、地域社会と密接に結びついているのが海外の寺院の特徴です。中でも「BONDANCE(盆踊り)」は盛大に開催され、大谷派に限らず日本の仏教寺院を象徴する行事となっています。



【別院報恩講(帰敬式の様子)】
大谷暢裕開教司教による開教区の巡回 (ブラジル別院南米本願寺)



【世界同朋大会】
海外・日本の門徒が一堂に集う。(2016年8月 第12回大会・北米)

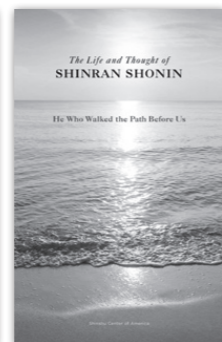
開教区の活動



【仏前結婚式】
豊かな自然の中ハワイでは、日本の方々が式を挙げる人が多い。



英訳「まんが親鸞聖人」 英訳「宗祖親鸞聖人」



【アメリカ真宗センター】
北米開教区にある教化センター。各種研修会や翻訳出版を行う。

次に「開教使の1日」をご紹介します！



【法事の様子】
日本語・ポルトガル語の二カ国語で法話。



【南米教学研究所での学習会】
ブラジル別院内に設置。市民講座や書籍の翻訳なども。



【現地の学生の受け入れ】
別院を公開し「宿泊体験」等も行っています。

一緒に働こう!!



現地では多くの開教使が日々活動しています。

【1日の流れ】

起床・お朝事・朝食

お朝事は、勤行・お話しという順番でお勤めする。ご門徒の御命日を併せてお勤めすることも。

法務・学習・デスクワーク

平日は寺報の作成などのデスクワークが主。
土日は法事が多く、一日千人もの方がお参りされることも。

昼食

法務・学習・デスクワーク

南米教学研究所での学習や法話の準備をする大切な時間。
別院の理事会や開教区の教化活動が行われることも。

お夕事・夕食

フリータイム

ブラジルと日本の時差は12時間。
日本へ連絡する場合は夕食後。

3 開教使の1日

開教区で活動する開教使は、どのような生活を送っているのでしょうか。ここではブラジル別院南米本願寺の開教使の1日をご紹介します。



【サントス旧市街】
移民が初めて南米大陸に渡った港があるサントス市内。



【サンパウロの市場】
現地の人々の生活にふれることも大切。

おまけ

開教使の休日

休日に、ブラジルの町並みや文化にふれることが出来るのも開教使の醍醐味。現地について学ぶことは、とても大切です。